巻頭言
Foreword

カタチのあるソリューションによる社会課題の解決を目指して

執行役専務
西田　直人

グローバル化の進展に伴い，国と地域の課題は相互に影響しながら地球全域に拡散し，持続性の観点から社会のあり方を考えることが重要になってきています。また国内を見れば，少子高齢化や地方の過疎化などわが国固有の課題もあります。こうした複雑な課題を克服し，地球規模で持続性を確保しつつ，一人ひとりが活躍し豊かな生活を営める社会の仕組み作りが求められています。

このような背景の下，東芝は“カタチのあるソリューション”で社会課題を解決することを技術開発の基本方針として掲げました。当社は，これまで社会に多種多様で大量の製品群を提供してきており，これらを通じて社会の要請やお客さまの期待を深く知ることができるアドバンテージを持っています。機器や，装置，設備などのハードウェアを徹底的に磨き上げて他社に比べて優位性を持つ“カタチ”をベースに，当社の豊富な顧客基盤から導かれるソリューションを提供する，すなわち，異なる地域や多様なお客さまが抱える様々な課題を，個別に，的確に解決する，という意味を込めました。

2016年の主な技術成果は，以下のとおりです。

機能，品質，コスト競争力が高いカタチある製品そのものを創出した成果として，64層もの積層プロセスを用いた3次元構造のフラッシュメモリーと，15 nmプロセスによるNAND型フラッシュメモリーを搭載したエンタープライズ向けSSD（ソリッドステートドライブ）の製品化を進めました。また，中国 清遠揚水発電所で高落差大容量揚水発電設備の全4台の営業運転開始に貢献するとともに，リチウムイオン二次電池SCiB™の量産能力を高め，様々な製品やシステムへの搭載を推進しました。

ユニークなカタチある製品を軸にソリューション化する技術として，車載向け画像プロセッサーを3次元計測処理に用いて将来の自動運転に向けた実証実験を行いました。また，IoT（Internet of Things）やAI（人工知能）などでデータを顧客価値に結び付ける技術の成果として，グローバルに展開される産業機器及び装置の見える化や遠隔監視を簡単かつ短時間で実現できるソリューション“IoTスタンダードパック”や，“東芝コミュニケーションAI RECAIUS”での多様なフィールド作業の支援を可能にする新サービスの提供も開始しました。

複合事業体のシナジーを生かしコアコンピタンスを新たなソリューションとして多面展開する技術として，呼吸とともに動く病巣への治療も可能にした重粒子線がん治療装置があります。地方独立行政法人 神奈川県立病院機構　神奈川県立がんセンター向けの装置が完成し，2016年3月に引渡しが完了しました。また物流施設の省力化に向けて，ロボット制御技術と画像認識技術を組み合わせた自動荷降ろしロボットの開発も進めました。

以上，東芝グループの技術開発の成果の一端を紹介いたしましたが，ぜひ本文をご一読いただき，皆さまのご助言，ご指導をいただければ幸甚です。